企業向け「キーポスト」モデル（ジャパンリカバリー社ニュースリリースより／画像クリックで拡大画像へ）

8月30日に実施する「北海道シェイクアウト」の案内パンフレット（図版クリックで拡大表示）

【 防災を読み解くキーワード 】

■「キーポスト」――非常時に“自らの安否情報”を発信

復興支援と災害に備えるサービスで社会の絆を回復

「キーポスト」（KeyPost）が被災地支援の“キーワード”になっている。「キーポスト」とは、失くしたカギを落とし主のもとに返却するサービスシステムで、もともとシンガポールで始まり世界的に広まりつつある。「キーポスト」は鍵につける『タグ』で、金属（亜鉛合金）でできていて耐久性に優れ、デザイン的にも高級感がある。このタグには返却・回収用の連絡先（コールセンターへのフリーダイヤル）が記されており、回収率が高い。そしてこの「キーポスト」が、その特長を活かしながら、意外なかたちで被災地支援につながっている。

陸前高田市の一般社団法人SAVE TAKATA（佐々木信秋代表理事）と「キーポスト」サービスを主事業とする東京都のジャパンリカバリー株式会社（岡田 聡社長）が本年4月、陸前高田市の協賛のもとに「Love Takata, Love Japan Project」という東日本大震災復興支援プロジェクトを立ち上げた。これは、救急サービスや寄付付きのキーホールダー用タグ「キーポスト」を広く販売することによって復興支援活動を広げようというもので、これを通じて復興支援の「継続性と風化防止」、「若者の支援・参画」も狙いとしている。

実は「キーポスト」登録者にはタグ付きカギの紛失返却サービスだけではなく、救急時のカギの所持者の身元を確認する手段ともなる「クライシス・アラート」という特別サービスが無料で付いているのだ。「キーポスト」のタグひとつひとつにシリアル番号が割り当てられ、利用者はそこに氏名、年齢、血液型、アレルギーの有無などの個人情報を登録することができる。災害や事故発生時にはそれをもとにジャパンリカバリー社が救急と連携し、身元確認、医療情報、緊急連絡先などを病院、消防、警察などに提供する。

「Love Takata, Love Japan Project」では「キーポスト」の価格は年間利用料込みの3360円（税込み）、このうち800円が陸前高田市への寄付となる。

企業向け「キーポスト」モデルを開発、サービス提供を開始

東日本大震災をはじめいろいろな災害で救急活動は一刻を争うが、被災者の身元・連絡先確認や医療情報の迅速な把握などに大きな課題を残していることは言うまでもない。平時には大切なカギを守り、非常時には自分の命を守る“カギ”となるかもしれない「キーポスト」――今後は非常時に“自らの安否情報”を発信する、安否確認と並ぶ重要な“自助情報メディア”になりそうだ。

ジャパンリカバリー社はこのほど、「キーポスト」を媒介して企業と消費者を結びつけることで企業ブランドを向上させる「キーポスト」モデルを開発し、企業向けサービスの提供を開始している。キーポストタグに自由に企業ロゴなどをデザインでき、企業・団体がタグ部分に自社のロゴを入れ、顧客にプレゼントするという販促活動によって普及させようというもの。企業は顧客や従業員に安全と安心、感謝のメッセージを伝えることができる。

>>陸前高田市「Love Takata, Love Japan Project」
>>ジャパンリカバリー株式会社「キーポスト企業モデル」

■ 北海道シェイクアウト

北海道防災会議が6月12日、「北海道シェイクアウト」訓練を8月30日に開催すると発表、高橋はるみ知事が記者会見を行い、参加募集を開始した。地域住民等が積極的に参加する機会として、個人、団体（企業、学校等）を対象とした道民や企業等の防災リテラシー（防災に関する知識や技術を自ら学び活用する能力）の向上をめざす。

「シェイクアウト」（ShakeOut）は、2008年に米国カリフォルニア州を中心に数百万人が同時参加して実施された地震防災訓練で、地震を想定して参加者が一斉に安全行動（安全行動の“1-2-3”＝「Drop（姿勢を低く！）、Cover（体・頭を守って！）、Hold On（揺れが収まるまでじっとして！）」）をとる新しい形の訓練。参加者はインターネットなどを通じて“参加登録”し、防災についての知識を深めながら、同じ日時に一斉に、それぞれの場所で主体的に安全行動をとる。

カリフォルニア州は米国で地震の多い地域だが、当初から訓練の趣旨に賛同する人びと、団体の共感を得て、第1回開催から500万人規模の参加者をみた。その後毎年参加規模を拡大して開催され、現在では米国各地、カナダなどでも行われており、本家のカリフォルニア州を中心とする「シェイクアウト」では昨年実績で約1000万人が参加している。

本紙はこれまで、米国「シェイクアウト」詳報をはじめ、本年3月9日に東京都千代田区で行われた日本で初めての「シェイクアウト東京」を企画段階からリポートしてきた（同訓練には約2万5000人が参加）。「シェイクアウト」関連記事（バックナンバー）の問い合わせは本紙まで。

>>「北海道シェイクアウト」（参加者募集）
>>The Great Japan ShakeOut（「日本版シェイクアウト」事務局）